

参考文献

- 青木 伶子 (1977) 「使役 —— 自動詞・他動詞との関わりにおいて ——」 『成蹊国  
文』 10
- 天野 みどり (1987) 「状態変化主体の他動詞文」 『国語学』 151
- 李 寅泳 (1987) 「日本語の自・他動詞の形態と相関」 『韓国外国語大学論文  
集』 20
- 井上 和子 (1976) 『変形文法と日本語 上・下』 大修館書店
- 池上 嘉彦 (1981) 『「する」と「なる」の言語学』 大修館書店
- 井島 正博 (1988) 「動詞の自他と使役との意味分析」 『防衛大学校紀要』 57
- 大塚 望 (1999) 「「する」と「やる」－生理・病理現象の表現を中心として－」  
『言語学論叢』 18
- 岡田 英俊 (1987) 「日本語の自動詞・他動詞の音韻分析」 『東京大学言語学論  
集'87』
- 奥田 靖雄 (1985) 「アスペクトの研究をめぐって」 『ことばの研究：序説』  
むぎ書房 (『教育国語』 (1978年) 53・54)
- 奥津 敬一郎 (1967) 「自動化・他動化および両極化転形」 『国語学』 70
- 影山 太郎 (1991) 「統語構造と語彙構造のヴォイス転換」 『言語理論と日本語  
教育の相互活性化』 (予稿集) 津田日本語教育センター
- 影山 太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房
- 影山 太郎 (1996) 『動詞意味論』 くろしお出版
- カモンオーン・コモンワニック & 沢田 奈保子 (1993) 「名詞述語文の日・タイ対  
照研究 —— 認知語用論の観点から ——」 『言語研究』 103
- 金水 敏 (1991) 「受動文の歴史についての一考察」 『国語学』 164

- 金田一春彦(1957) 「時・態・相・および法」 『日本語文法講座 第一巻 総論』 明治書院
- 国広哲弥(1985) 「認知と言語表現」 『言語研究』 88
- 工藤真由美(1990) 「現代日本語の受動文」 『ことばの科学4』 (言語学研究会編・むぎ書房) 所収
- 久野<sup>ノ</sup>麟(1983) 『新日本文法研究』 大修館書店
- 小泉保<sup>ホ</sup>編(1989) 『日本語基本動詞用法辞典』 大修館書店
- 佐伯哲夫(1984) 「態による動詞分類に向けて——自他と使役そして受動」 『国語語彙史の研究 五』 (国語語彙史研究会編 和泉書院) 所収
- 佐久間鼎(1936) 『現代日本語の表現と語法』 くろしお出版
- 沢田奈保子(1992) 「名詞の指定性と形容詞の限定性、描写性について——色彩名詞と色彩形容詞の使い分け要因から——」 『言語研究』 102
- 定延利之(1991) 「深層格が反映すべき意味の確定に向けて——対称関係・対称性を利用して——」 『日本語のヴォイスと他動性』 (仁田義雄編 くろしお出版) 所収
- 佐藤琢三(1994a) 「他動詞表現と介在性」 『日本語教育』 84
- 佐藤琢三(1994b) 「動詞の自他対応と様態指定」 『筑波応用言語学研究』 1
- 佐藤琢三(1995a) 「相対自動詞と受動態」 『文教大学国文』 24
- 佐藤琢三(1995b) 「日本語のヴォイスの体系とプロトタイプ」 『日本語と日本文学』 21
- 佐藤琢三(1995c) 「日本語の行為を表す動詞——外国人に対する日本語教育のための基礎的研究として——」 『国際関係研究 国際文化編』 16-2
- 佐藤琢三(1997a) 「患者が注射をする——動詞の意味滝焦点と事態の結果のコントロール——」 『言語』 26-2
- 佐藤琢三(1997b) 「ナルの表現と丁寧さ」 『文教大学国文』 26

- 佐藤琢三(1998) 「自動詞ナルと計算的推論」『国語学』192
- 佐藤琢三(1999) 「ナッテイルによる単純状態の叙述」『言語研究』116
- 佐藤琢三(2000予定) 「ナルの文の発話と対人行為」『現代日本語語彙・文法研究』(草薙裕編・くろしお出版)
- 柴谷方良(1978) 『日本語の分析』 大修館書店
- 柴谷方良(1985) 「主語プロトタイプ論」 『日本語学』 4-16
- 柴谷方良(1997) 「言語の機能と構造と類型」 『言語研究』112
- 島田昌彦(1979) 『国語における自動詞と他動詞』 明治書院
- 須賀一好(1980) 「併存する自動詞・他動詞の意味」 『国語学』120
- 須賀一好(1986) 「自動詞・他動詞」『国文学解釈と鑑賞』51-1
- 須賀一好・早津恵美子編(1995) 『動詞の自他』 ひつじ書房
- 砂川有里子(1984) 「<に受身文>と<によって受身文>」『言語』3-7
- 高橋太郎(1975) 「文中にあらわれる所属関係の種々相」 『国語学』103
- 高橋太郎(1985a) 『現代日本語のテンスとアスペクト』 秀英出版
- 高橋太郎(1985b) 「現代日本語のヴォイスについて」 『日本語学』4-4
- 高橋太郎(1993) 「ダブルテンス研究のすすめ」 『立正大学国語国文』29
- 高橋太郎(1994) 『動詞の研究』 むぎ書房
- 竹林一志(1997) 「「する」の意味の本質——多義の包括的理解——」 『解釈』43-4
- 田中聡子(1996) 「動詞「みる」の多義構造」『言語研究』110
- 田野村忠温(1988) 「『部屋を掃除する』と『部屋の掃除をする』」 『日本語学』11-7
- 角田太作(1991) 『世界の言語と日本語』 くろしお出版
- 寺村秀夫(1976) 「「ナル」表現と「スル」表現」『日本語と日本語教育 文字・表現編』 文化庁・国立国語研究所(『寺村秀夫論文集Ⅲ』 くろしお出版)

1993年)

- 寺村秀夫(1978) 『日本語の文法(上)』 国立国語研究初編 大蔵省印刷局発行
- 寺村秀夫(1982) 『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』 くろしお出版
- 寺村秀夫(1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版
- 寺村秀夫(1993) 『寺村秀夫論文集Ⅱ』 くろしお出版
- 中右実(1994) 『認知意味論の原理』 大修館書店
- 西尾寅弥(1978) 「自動詞と他動詞における意味用法の対応について」 『国語と国文学』55-5
- 西尾寅也(1982) 「自動詞と他動詞——対応するものとししないもの——」 『日本語教育』47
- 西尾寅也(1988) 『現代語彙の研究』 明治書院
- 仁田義雄(1980) 『語彙論的統語論』 明治書院
- 仁田義雄(1981) 「態(ヴォイス)」 『日本文法事典』 有精堂
- 仁田義雄(1982) 「再帰動詞・再帰用法」 『日本語教育』47
- 仁田義雄(1997) 『日本語文法研究序説——日本語の記述文法を目指して——』  
くろしお出版
- 沼田善子(1988) 「日本語動詞 自・他の意味的対応(1)——多義語における  
対応の欠落から——」 『研究報告集(10)』国立国語研究所報告 96
- 野田尚史(1991a) 「日本語の受動化と使役化の対称性」 『文芸言語研究 言語  
篇』19
- 野田尚史(1991b) 「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」 『日本語の  
ヴォイスと他動性』(仁田義雄編 くろしお出版)
- 野村剛史(1982) 「自動・他動・受身動詞について」 『日本語・日本文化』11
- 早津恵美子(1987) 「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」 『言

語学研究』6

早津恵美子(1989a) 「有対他動詞と無対他動詞の違いについて——意味的な特徴を中心に—— 『言語研究』95

早津恵美子(1989b) 「有対他動詞と無対他動詞の意味上の分布」 『計量国語学』16-8

早津恵美子(1990) 「有対他動詞の受身表現について——無対他動詞の受身表現との比較を中心に——」 『日本語学』9-5

日高水穂(1994) 「越中五箇山方言における授与動詞の体系について」 『国語学』176

細川由紀子(1986) 「日本語の受身文における動作主のマーカ―について」 『国語学』144

益岡隆志(1987) 『命題の文法』 くろしお出版

益岡隆志(1991) 「主題のプロトタイプ」 「モダリティの文法」(益岡隆志著 くろしお出版)所収

松本曜(1993) 「認知言語学と語用論——抽象的变化表現——」 『言語』22-7

松本曜(1997) 「空間移動の言語表現とその拡張」 田中茂範・松本曜著『空間と移動の表現』125-230 東京:研究社出版

三上章(1953) 『現代語法序説』 刀江書院 復刊 1972 くろしお出版

宮島達夫(1982) 「ドアをあけたが、あかなかった——動詞の意味における<結果性>——」 『計量国語学』14-8

村木新次郎(1991a) 「ヴォイスのカテゴリーと文構造のレベル」 『日本語のヴォイスと他動性』(仁田義雄編 くろしお出版)所収

村木新次郎(1991b) 『日本語動詞の諸相』 ひつじ書房

初山洋介(1992) 「多義語の分析——空間から時間へ——」 『日本語と日本語教育』(カッケンブッシュユ寛子(編)・名古屋大学出版会)所収

- 森田良行(1987) 「自動詞と他動詞」 『国文法講座』6 (山口明穂編 明治書院)
- 森山卓郎(1988) 『日本語動詞述語文の研究』 明治書院
- 森山卓郎・渋谷勝己(1988) 「いわゆる自発について—山形方言を中心に」 『国語学』152
- ヤコブセン・ウェスリー(1989) 「他動性とプロトタイプ論」 『日本語学の展開』(久野・柴谷方良編 くろしお出版)所収
- 矢澤真人(1997) 「発生構文と位置変化構文」 『筑波日本語研究』2
- 柳沢浩哉(1992) 「シテイル形式の報告性」 『地域文化研究』18
- 山梨正明(1986) 『発話行為』 大修館書店
- 山梨正明(1993) 「格の複合スキーマモデル——格解釈のゆらぎと認知のメカニズム——『日本語の格をめぐる』(仁田義雄編 くろしお出版)所収
- 山梨正明(1995) 『認知文法論』 ひつじ書房
- 楊凱榮(1989a) 「文法の対照的研究——日本語と中国語——」 『講座日本語と日本語教育 第5巻』(山口佳紀編 明治書院)
- 楊凱榮(1989b) 『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』 くろしお出版
- 和氣愛仁(1997) 「文法的ヴォイスと二格名詞句」 『筑波日本語研究』2
- 鷲尾龍一(1991) 「受動の意味」 『言語理論と日本語教育の相互活性化』(予稿集) 津田日本語教育センター
- 鷲尾龍一(1997) 「他動性とヴォイスの体系」 『日英語比較選書7 ヴォイスとアスペクト』(中右実編 研究社出版)
- Hopper, Paul J. and Sandra A. Thompson(1980) "Transitivity in Grammar and Discourse" *Language* 56.
- Jacobsen, Wesley M. (1991) *The Transitive Structure of Events in Japanese.*

- Tokyo:Kuroshio.
- Kuroda, Shige-Yuki. (1979) On Japanese Passives. In:George Bedell, et al. (eds.) *Explorations in linguistics. :Papers in honor of Kazuko Inoue.* Tokyo:Kenkyuusha.
- Lakoff, George (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things.* Chicago:University of Chicago Press.
- Langacker, Ronald W. (1986) "An Introduction to Cognitive Grammar." *Cognitive Science* 10.
- Langacker, Ronald W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar. Vol. 1: Theoretical Prerequisites.* Stanford:Stanford University Press.
- Levin, Beth (1993) *English Verb Classes and Alternations.* Chicago: University of Chicago Press.
- Matsumoto, Yo (1996a) Subjective-change Expressions in Japanese and Their Cognitive and Linguistic Bases. In:Eve Sweetser & Gilles Fauconnier (eds.) *Spaces, Worlds, and Grammar.* Chicago:The University of Chicago Press.
- Matsumoto, Yo (1996b) Subjective Motion and the English and Japanese Verbs. *Cognitive Linguistics* 7.
- Matsumoto, Yo (1997) Linguistic Evidence for Subjective (Fictive) Motion. In:K. Yamanaka and T. Ohori (eds.) *The Locus of Meaning.* Tokyo:Kuroshio.
- Mel'cuk, I. (1994) Inflectional Category of voice:Towards a more rigorous definition. In: B. Comrie and M. Polinsky (eds.) *Causatives and Transitivity.* Amsterdam:John Benjanins.
- Sweetser, Eve E. (1990) *From etymology to pragmatics.* Cambridge:Cambridge University Press.

- Talmy, Leonald(1983) How Language Structures Space. In:H.Pick and L.Acre-  
dolo(eds.) *Spatial Orientation:Theory, Research, and Application*. New  
York:Plenum.
- Uchida, Y & M.Nakayama(1993) Japanese verbal noun construction *Linguist-  
ics* vol 31-4.
- Shibatani, Masayoshi(1976) Causativization In :M.Shibatani(Eds.) *Syntax  
and Semantics:Japanese generative grammar* Vol.5. New York:Academic  
Press.
- Shibatani, Masayoshi(1977) Grammatical relations and surface cases.  
*Language* 53.
- Shibatani, Masayoshi(1985) Passives and related constructions. *Language*  
61.
- Tsunoda, Tasaku(1985) Remarks on transitivity. *Journal of Linguistics* 21.
- Washio, Ryu-ichi(1995) *Interpreting Voice:A case study in lexical semant-  
ics*. Tokyo:Kaitakusha



## 用例出典

### 第4章

サ：『サッカーダイジェスト』（1997年5月28日号）日本スポーツ企画出版社

術：『術語集』 中村雄二郎 岩波新書

タテ：『タテ社会の人間関係』 中根千枝 講談社現代新書

地：『地の漂流者たち』 沢木耕太郎 文春文庫

### 第5章

『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』 1995年 新潮社